

海陽だより

荒尾海陽中学校

第10号(R7.9.26)

「挑戦！さらに一步前進」

文責：校長 右田尚久



秋晴れの空が心地よい季節となりました。また、やつと涼しいと思える風も吹くようになり、めっきり秋らしくなりました。9月も終盤となり、いよいよ前期終了も目前に迫りました。先週は期末テストに向け生徒たちはしっかりと頑張ったと思います。1年の折り返しの前期の終了に向けて、6か月間を振り返り、後期に向けて目標を立てる時期になりました。

学校の行事では、前期終業式（10月10日）、地域貢献活動【公園等の清掃活動】（10月10日午後）、後期始業式（10月14日）、中体連駅伝競走大会（10月15日）、学習発表会【合唱コンクール】（10月17日）、PTA学年活動【専大熊本玉名高校演奏会】（10月23日）、3年生県共通テスト（10月28日29日）等の大きな行事が計画されています。生徒たちの活躍が楽しみです。



四ッ山神社秋季例大祭にて

9月13日（土）に開催された四ッ山神社の秋季例大祭において、本校の生徒が巫女さんとして参加し、地域の伝統行事をしっかりと支えてくれました。

白い装束に身を包み、真剣な表情で神事に臨む姿はとても凛としており、地域の皆様からも「よく頑張っていたね」「立派だったよ」とたくさんのお褒めの言

葉をいただきました。

このような地域行事への参加は、子どもたちにとって貴重な学びの機会であると同時に、地域と学校とをつなぐ大切な架け橋にもなります。



伝統を受け継ぐ経験を通して、子どもたちが自分のふるさとに誇りをもち、これから社会を担う一人として育っていってほしいと願っています。

地域の皆様には、いつも温かく見守っていただき、心より感謝申し上げます。今後とも、子どもたちの成長と一緒に支えていただければ幸いです。



思いやりの心をはぐくむ学び



9月19日に、1年生を対象に「認知症センター養成講座」が行われました。講師として校区在住の清田さんや荒尾市保健介護課の方、小柳学校運営協議会会长をお招きし、認知症とはどのようなものか、どんな接し方が望ましいかをわかりやすく話していただきました。



はじめて聞く内容も多かったかと思いますが、子どもたちは真剣な表情で耳を傾け、「困っている人を見かけたら、どうしたらいいのかな?」「優しく声をかけてみよう」など、自分たちにできることを考えながら学んでいました。

高齢化が進む中で、認知症についての理解を深め、誰もが安心して暮らせる地域社会をつくることは、これからの中でも大切なテーマです。

今回の講話をきっかけに、子どもたちが「思いやり」や「気づく力」を育みながら、身近な人たちとのつながりを大切にしていってくれることを願っています。

力を合わせて環境美化 ～PTA除草作業に協力ありがとうございました～



8月30日に行われたPTA除草作業では、早朝から多くの保護者の皆様、そして生徒の皆さんにもご参加いただき、校内の草刈り、草取り、草集めを行っていただきました。



当日は猛暑に中、90リットルの大型ごみ袋にしてなんと100袋分もの草を集めることができました。皆さんの協力のおかげで、学校の敷地が見違えるようにきれいになり、子どもたちがより気持ちよく学べる環境が整いました。

こうした活動を通して、子どもたちも「自分たちの学校は自分たちできれいにする」という意識や、保護者の方々の姿から「働くことの大切さ」や「地域の支え」を学んでいるように感じます。



日頃の積み重ねの成果

9月10日（水）、玉名教育事務所および荒尾市教育委員会の先生方による学校総合訪問が行われました。

授業の様子や学校生活全体について丁寧にご覧いただき、多くのお褒めの言葉をいただきました。特に、登校時や廊下での自然なさわやかなあいさつや授業に向かう際の静かで落ち着いた姿勢、制服や体育服などの身だしなみの整いや給食時の清潔な身なりなど、日頃から子どもたちが積み重ねてきたよい習慣が、しっかりと表れていたと高く評価されました。

体育服のシャツを出している生徒がひとりもおらず、清潔感のある印象を受けたというお言葉もありました。これは、子どもたち一人ひとりの意識の高さはもちろん、ご家庭でのご指導や見守りの賜物であると、心から感謝申し上げます。

これからも見えないところでもきちんとできる子どもたちを育てていくために、学校全体で取り組んでまいります。今後とも、変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。